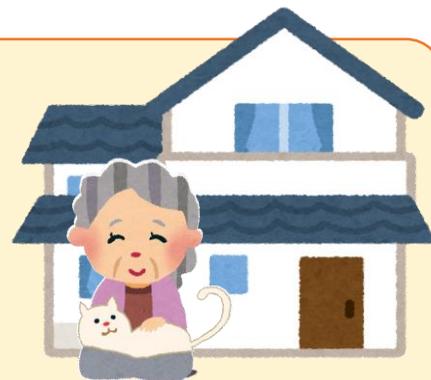


### 一人になっても愛猫と自分らしく生活したい…

Yさん(90歳 女性 要介護5)は、慢性関節リウマチがあり、関節の変形、拘縮、痛みやこわばり等の症状があり、自宅で転倒し左大腿骨骨折にて入院、手術を行った。日常生活動作が低下したため一人暮らしが続けられるか不安があり、看護小規模多機能型居宅介護ケアホーム希望に登録となり、退院後は「泊まり」のサービスを利用しながら在宅復帰した。



20歳の頃 結婚したが 子どもには恵まれず、姑を約2年間 献身的に介護をし自宅で看送った矢先に夫が病気になり、夫も自宅で介護し10年程前に看送り一人暮らしをしている。近所付き合いが良く、野良猫を保護したりし猫や犬を何匹も飼いながら「自分でできることは極力人に頼らず生活をしたい」がYさんの口癖であった。

Yさんが一人で在宅生活を続けるために どのようなサービスが必要であるか検討した

日常生活動作について、何ができて 何ができないのかを確認する

#### ① 食事について…

帰宅時に、お弁当やお惣菜、パンやおにぎりを購入してベッド横のテーブルに夕食と朝食に分けセットし、脱水予防のため常に水分が摂れるようペットボトルとコップを用意する等の支援を訪問介護で対応することとした。

#### ② 内服について…

薬BOXを用意して、セットした薬が自分で取り出し内服できるよう「泊まり」のサービス利用中に練習した。

#### ③ 排泄について…

ポータブルトイレをベッドサイドに設置し、ベッド柵を使って立上がりからズボンやリハビリパンツの上げ下げが自分でできるように「泊まり」のサービス利用中に練習した。

#### ④ 緊急時について…

緊急時のためにベッドサイドには電話を置き、訪問看護で対応できるようにしたと同時に調布市の高齢者緊急通報システムに申込み、自宅に専用通報機を設置し、ペンダント型の無線発報器を常に首に掛けておくことで、転倒や事故、不測の事態に備えた。

Yさんは施設ではなく、慣れ親しんだ我が家で、ケアホーム希望の「通い」と「泊まり」・「訪問看護」「訪問介護」のサービスを利用しながら自宅での猫との生活が続けられている。一人暮らしの在宅生活を支えるため介護支援専門員(ケアマネジャー)・医師・看護職、介護職、福祉用具専門相談員等、多職種の職員がそれぞれの専門的な視点で、在宅復帰できるよう在宅生活に必要な生活能力、住環境等についてアセスメントし、その結果を踏まえ、必要な支援を展開していくことが重要である。

待ってました!

緑ヶ丘一丁目自治会



3年ぶりの開催  
緑ヶ丘一丁目自治会  
秋祭りに参加しました!

わ～楽し～!

大盛り上がりの  
ビンゴ大会

エイサー  
サイコー!

いえ～い!  
当たった～♪

やったー!  
ビンゴ  
景品ゲット～!

これ…  
もうビンゴに  
なってるよね?

沖縄エイサーを踊ったり ビンゴ大会で 商品をGetしたりと 3年ぶりの秋祭りを思いっきり楽しみました～!